

笑顔が一番

令和6年 4月
今江こども園
二木 恵子

入園、進級おめでとございます

満開の桜の中、4月3日には入園式を無事行うことが出来ました。喜びに満ちた保護者の皆様の様子を見ながら、改めて子どもと居られる幸せや大切なお子さんを預かる責任を感じました。

子ども達は、新しいクラスで元気に活動しています。特に青組さんは、年長児としての自覚に目覚め生き生きとしており、これまでより大きく見えます。

さて、今年は、総会とクラス懇談を5月17日（金）に行います。そこで、園の運営方針と新園舎についてお話しします

また、今年度は、今の園舎での保育が最後になる年です。子ども達の心に刻まれる素敵な思い出をこの園舎でたくさん作ることができたらと思います。また、施設移動のためにご不便を多々かけることになると思いますが、なにとぞご理解とご協力をお願い致します。

子どもの成長のために

物事に対して自分から**やってみたいと思う意欲**があり、**自分に自信**を持って**力強く生きていける子ども**にするためには、幼児期での育ちが大切です。そのため、園では、0歳児からの継続した取り組みをしています。

1, 豊かな心を育てる。

0歳児からの**読み語り**に力を入れています。先生方は毎日2回から3回の本の読み聞かせをしています。0歳でも、ちゃんと反応しながら本を楽しむことができます。5月中旬から赤組以上の子ども達は、本をクラスで借りて帰りますので、お子さんと一緒に本を楽しんで下さい。



2, 丈夫な身体を育てる。

心を沢山の絵本と出合うことで育て、体づくりには、園庭遊びや園外活動、0歳児からサーキット遊び等の遊びを工夫し、体幹とバランス力をつけていきます。また、食育活動も0歳児から工夫して行い、楽しみながら食事ができるようにし、丈夫な体づくりをします。

3, 小学校への子どもの学びと育ちをつなぐ。

読み聞かせ交流などしていきます。園での活動を知っていただき、スムーズな成長と学びの流れができるようにしています。

「笑顔が一番」をスローガンに、子ども達の保護者の笑顔のために、毎日の努力や頑張りを見つけ誉め育てていきたいと思ひます。

お家では、園から帰った時、おやすみ前に、「**今日も、よくがんばったね。大好きだよ**」と言って**ぎゅーと抱きしめて**あげてください。「今日は一日忙しくて子どもの事をあまり見てあげられなかった。」と思う日もありますね。そんな時こそ、ぎゅーです。子どもは親に認められ抱きしめられる事で、自分の価値を確認できるのです。この毎日のたった30秒が、**自己肯定感を高め、将来のやる気、耐える力を育てる**こととなります。

自己肯定感を高め主体性が持てる、土台づくり

乳幼児期で育てたい力

最近、子どもの主体性を育てることが話題になっています。今大活躍の大谷翔平さんは、まさにその主体性を持った人と言えますね。そのため、それぞれの自己肯定感を高めることが大切です。

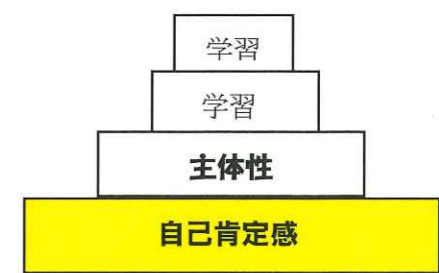
乳幼児期の育ちが、子ども自身が人生を健康で幸せに生きていけることに影響することが、あきらかになっています。

子ども達がこれから生きていく中で、自ら意欲を持って活動・学習し「主体性」、困難にもへこたれず乗り越えられる力「自己肯定感」を身に付けてほしいと思ひます。

幼児期に、自己肯定感を育てていないと、小学校以降どれだけ学習・経験を積んでも崩れてしまい、定着しません。



自己肯定感が育っていないので崩れる



主体性、学習・経験が積みあがる

幼児期に、子どもを認め褒め自己肯定感を高め、主体性を高めておくことが、これからの子どもたちの「生きる力」や、壁にぶつかった時の「乗り越える力」になります。

土台づくりの大切さ

新園舎の工事から

現在、春日神社前に令和7年4月から入園を建築中です。その工程を見ながら、改めて土台づくりの大切さを感じています。園舎が立つ土台は、何重にも巻かれた鉄骨とコンクリートで作っています。さらに、この下の地中に4階建ての長さのある杭を28本も打って支えているとお聞きしました。地上に見える園舎よりはるかに長く丈夫な土台が地中で、私達の園を支えていくと知り、子ども達のこれからを支える自己肯定感の土台に似ているなど感じました。

私達は、つつい見える部分に気を取られ評価しがちですが、それ以上に大切な子ども達の未来を支える土台をしっかりと作っていききたいものです。

大切なお子さんとの歩みは、本当に嬉しいことですが、育児には必ず悩みがつきものです。今年も少しでも保護者のみなさまの助けになるよう、情報提供していきます。